

専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価 —平成 20 年度から平成 22 年度までの結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生とのコミュニケーションと教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成 18 年度より授業評価を開始、平成 20 年度より本格的にアンケート結果の分析を進めて参りました。それから現在に至るまで継続して授業評価を実施し、さらなる授業の質の向上に努めております。

今回は、その動向をお伝えし久留米リハビリテーション学院の授業方針とそれに対する学生の印象や感想について、皆様にご周知頂ければ幸いに思います。

【学生による授業評価】

1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項と本学院の特徴である e-school に関する事項とした。また、それぞれの事項に値する細項目を設け評価を実施した。細項目については、以下に示す。

(1) 教員の授業の進め方

- ① シラバスの授業の目標や内容および評価方法を適切に示していた。
- ② 指定された教科書は、適切だった。
- ③ 講義時間と実技実習時間の配分は適切だった。(該当科目のみ)
- ④ 授業担当者は、効果的に学生の参加(発言等)を促した。
- ⑤ 授業担当者は、学生に適切な助言を与え相談にのってくれた。

(2) 教員の伝え方

- ① 板書および配布資料などは、効果的であった。
- ② 授業担当者の話し方は、聞き取りやすかった。
- ③ 授業担当者の説明は、わかりやすかった。
- ④ 専門的な知識や技術を習得することができた。

(3) 教員の関わり方

- ① 授業担当者の授業に対する熱意を感じた。
- ② 授業担当者は、授業中の私語、いねむりなどの迷惑行為を止めさせた。

(4) パソコンの活用(教員・学生)

- ① 授業担当者は、パソコンのスライドを効果的に活用していた。
- ② 授業担当者は、ネット環境(イントラネット・メール)を効果的に活用していた。
- ③ 自分は、授業中にパソコンを効果的に活用できた。

(5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業を受けて、この科目に関して勉強する意欲が高まった。
- ② 自分は、この授業に意欲的に取り組んだ。
- ③ 総合的にみて、この授業は価値があった。

2. 評価の方法および集計方法

上記の評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「強くそう思わない」の4つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらった。ただし、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」としてもらった。また、感想・意見・希望などを自由に記載してもらった。

集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として100点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

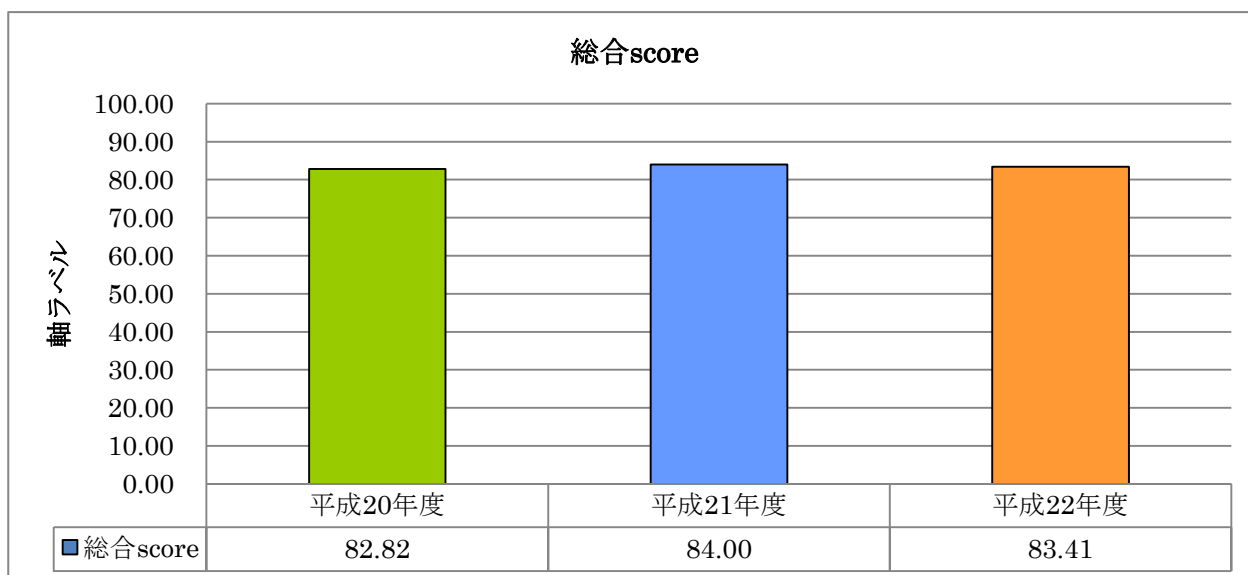
「強くそう思う」	: 5点
「そう思う」	: 4点
「無回答」	: 3点
「そう思わない」	: 2点
「強くそう思わない」	: 1点

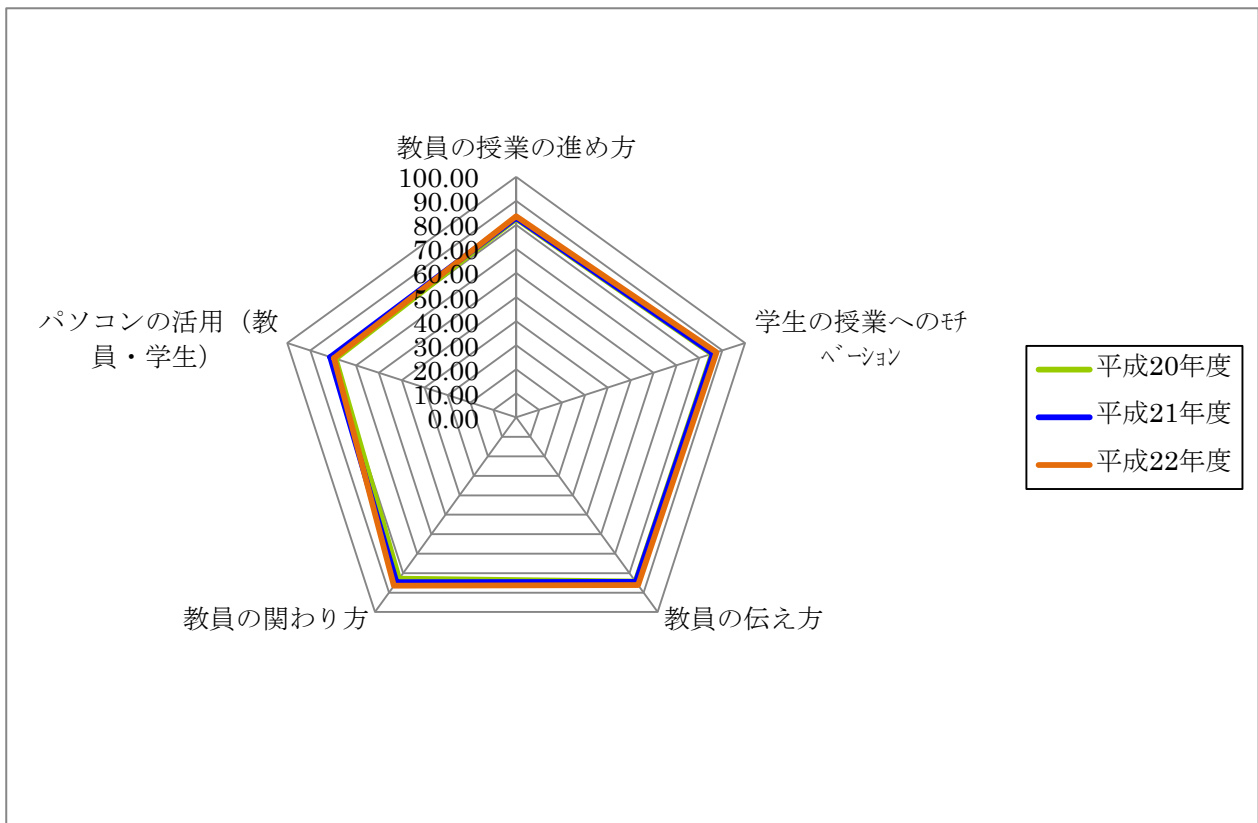
3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

<各年度の平均総合点>

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
教員の授業の進め方	82.59	82.98	83.56
学生の授業へのモチベーション	85.59	85.99	87.50
教員の伝え方	84.27	84.55	86.08
教員の関わり方	82.80	84.71	86.46
パソコンの活用（教員・学生）	78.92	81.27	79.60
総合 score	82.82	84.00	83.41





(自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動学Ⅱ (OT)	中枢は難しいですが、先生の講義は分かりやすく興味を持つことが出来ました。
作業治療学Ⅲ (OT)	実習体験もできてフィードバックも頂けたので自信もついてよかったです。
作業療法概論Ⅱ (OT)	丁寧な説明で運動学と密接に関係していることが分かった。負担をかけないような介助を身につけ今後の実習に役立てたい。
作業療法評価学実習Ⅰ (OT)	授業時間にもっと本当の患者さんだと考えて取り組まなければいけないと思った。
日常生活活動 (OT)	作業療法はその人の日常をみるのが大事だということを学んだ。1つの事から多くの事をつなげて考えるということを学んだ。ADLをみる、患者さんをみることの大切さや難しさなどが分かり身になる授業でした。すごく難しい授業ではあったのですが、とても楽しくやりがいがありそうだと思います。
応用作業学 (OT)	レクリエーションに関して、こんなにいろいろな事を考えて実施しているとは考えていなかった。勉強になった。
解剖学Ⅰ	小テストのおかげで理解が深まった。
基礎運動学Ⅰ	難しかったが、先生が分かりやすいように動作もしてくれながら授業をしてくれたのでイメージ出来た。
リハビリテーション概論 (PT)	実際に実技実習をやって言葉だけじゃわからない所も分かるようになった。

理学療法評価学Ⅱ (PT)	とても分かりやすかったし、詳しく教えてくれた。学ぶことは多かったが、PTになったら役に立てる。
理学療法技術論演習 (PT)	実技がよく学べました。実習で活かしていきたいと思います。
生活環境論 (PT)	障害を持つ方がどのような環境が住みやすいのか、どのような道具を使ったら生活しやすいか、自分で体験し、調べる事で障害を持つ方の不自由さ、PTとして何を考えるべきかを知る事が出来、今後に活用していきたいと思いました。

4. 分析と今後の課題

我々が育成していく理学療法士・作業療法士は、専門職として永続的に学習していく必要があり、その為には自律した学習ができる学生の育成が求められる。上記の結果からは、本学独自の評価であるが、どの年度においても学生の授業に対する満足度は8割を超えているとみることが出来る。これより、本学の全体的な授業の内容としては、学生が求める授業を提供できていると考えることが出来る。しかし、学生が求める授業＝自律して学習できる学生教育とは限らない。よって、今後更に授業の質を高める上で評価方法の見直しを行い、各授業や教員の課題の明確化を図っていきたいと考える。また、他校で使用されている評価法も参考にし、より客観的に授業評価を行うことで教員の自己研鑽と授業の質の向上につなげていきたいと考える。